あびこ型「地産地消」推進協議会

键 第46号 2018年3月15日発行



ルッコラの幼苗

トマト (ナス科) の花

題字・ 南美智子さん



満開の菜の花



定植した玉ネギの幼苗



啓蟄のテントウムシ

1. 養成講座を援農に生かす

援農ボランティア部会 宮園祐爾(第12期)

今年度も援農ボランティアに了名の新メンバーが加わりました。第14期ボランティア養成講座で「援農ボランティア活動事業実施要綱」を基に、援農ボランティア活動について日頃のボランティア経験を基にお話をしましたので、その内容をお伝えします。農政課より「我孫子の農業について」のお話があった後でしたので、エコ農産物に理解を深めた状況での説明となりました。ここ数年、ボランティアの定着率が低いため、最初から楽しい話をするばかりでは、現実の厳しさについていけない場合もあると思い、苦しい時の話もしたつもりです。

① 私たちはボランティアであり農家のパートさんとは違う

農家さんの畑にボランティアに行くと、農家さんの雇用しているパートさんと一緒に作業をすることがあります。農家さんの雇用しているパートさんは、私たちボランティアのようにたまに行くわけではなく、農家さんに信頼され定着してお金のもらえる作業をしています。しかし、私たちボランティアの作業は、収穫や出荷といった表面に見える作業ではなく裏方の作業がほとんどです。

エコ農産物を作れば、雑草が出てきます。草取りがボランティアの 大切かつ重要な作業のひとつです。草取り、片づけ、次の作物の準備、 でボランティア作業の9割と言っても過言ではありません。でもその 作業に人手が回らなく、農家さんは困っています。新しい作物を植え る場所を確保しなければタイミングを失ってしまう。だからこそ私た ちボランティアがお役に立てる。

実費弁償 300 円が農家さんから支給されますが、私たちはパートではなく無償のボランティアだという自覚を持って作業しましょう。 作業中に農家さんに伺う話はためになる話ばかりです。



② 農家さんは個々に独自のノウハウを持っている

今回の新メンバーは、家庭菜園をしている方が多くおられます。最近では家庭菜園での作業方法を、テレビ等で紹介されていることも多いでしょう。でも農家さんのやり方と家庭菜園の作業では、根本的に異なります。また、それぞれの農家さんが、隣接する農家さんとはまったく違う独自の考え方をお持ちの場合もあります。私たちボランティアは頭でっかちにならず、まずはそれぞれの農家さんの指示通りに作業に取り組んでいきましょう。わからないことがあれば、その場で聞いてください。自分独自のやり方で作業をするのではなく、個々の農家さんのノウハウを吸収していきましょう。

③正直に話しましょう、無断欠席はやめましょう

作業中、ハウスに穴をあけたり、苗が折れたりすることがあります。 その場合はそのままにせず、正直に伝えましょう。正直に話せば責められることはないはずです。

ボランティアの作業予定は1ヶ月以上前に確定します。当然その後に 予定がはいり、作業に行けない場合も出てきます。必ず農家さんに直接 連絡してください。作業的に人数が必要な場合は、不足人数の手当ても 出来ます。当日のドタキャンでも良いので、無断欠席はせず、必ず連絡



しましょう。

③ 無理をしない、他のボランティアと競わない

草取りなどの作業はなかなかつらいものです。四つん這いでの作業は日頃していませんから、翌日太ももの後ろが張ったり、腰が痛くなったりと、身体に反動が出ることもあるでしょう。

夏のハウスでの作業は50度近くの温度の中での作業になってしまうこともあります。

作業をしていると、自分のペースと他のボランティアのペースの違いを感じて、どうしても無理をしてしまい。 がちですが、身体を壊してはその後の作業に支障が出ますし、モチベーションも維持できません。

援農ボランティアの基本は、人と競わず自分の身体と相談しながら作業をする事、です。

マイペースで、他人と競わず、1ヶ月に1回でも良いので、これから長く携わっていきましょう。

2. エコツアーを楽しんで

工口農産物普及推進部会 今村直美

~「自分の住む街・地域が好き!」という幸せ~

「地産地消」…って改めて引いてみると、「地域生産・地域消費の 略語で、地域で生産された様々な生産物や 資源(主に農産物や水産物)をその地域で 消費することである」とあります。メリットとして、消費者と生産 者の顔の見える関係ができ安心で、とにかく新鮮な旬の農産物を手に入れることができる、中間業者がいないの で生産者にとってはコスト削減、消費者にとっては比較的安価に手に入れることができる、地域内でのやり取り のため輸送距離(フードマイレージ)が短く環境にも優しい、少々の規格外でも販売が可能になる、地域独自の

食文化や行事を見直すことができるなどが挙げられるでしょうか。デメリットは、旬や地域の縛りにより品揃えに偏りがある、スーパーのように一度に買い物が終わらないなどがありますね。でも、地産地消の一番大事で一番シンプルなことは、自分の住む街が好きかどうかってことではないでしょうか。自分の住む街が好きだから、この環境や風土やあの農家さんが好きだから、次に繋げられるようにしたいと思う気持ちが地産地消へ向かう気持ちになるのだと思います。そして、そんな思いが、ちょっとした自分の暮らしの豊かさにつながっていくのではないかと思います。

と、前置きが長くなりましたが、平成29年11月25日(土)にエコ部会主催のエコツアーが開催されました。26名もの方にご参加いただきました。お天気も良く、風もない最高のツアー日和!今年は地元の楽しさを知ってもらおうと、手賀沼遊覧船に乗り込み、いつもとは違う目線から手賀沼を満喫!下船後、あびこんお隣りの米舞亭のウッドデッキで我孫子産の野菜をたっぷり使ったヘルシーランチパーティで交流を深めました。その後は、水の館3階にあるプラネタリウム(お腹もいっぱいで気持ちよくてお昼寝をしている人もいましたが。(笑))や鳥の博物館をぶらりぶらり楽しみました。

10年ほど前に自然の豊かなところで子育てがしたい、畑仕事をしたいと思い手賀沼のある地域へ引っ越しをしてきた私ですが、その選択は間違っていなかったなぁと改めて感じる一日となりました。自分の住む地域が好きって、すごく幸せなことですね(^^)



手賀沼遊覧船。いつもとは違う目線 から手賀沼を満喫!



米舞亭のウッドデッキでヘルシー ランチパーティ

3. 情報交換会で話し合う

援農ボランティア部会 井出史郎

ずっと援農ボランティア活動を続けて頂いている方、新しく仲間に加わっていただいた方、そして事務方として、公として運営をサポートしていただいている方、本当にたくさんの力をいただき援農ボランティア活動が続けていけています。ご協力誠にありがとうございます。多くのメンバーが一緒になる機会は少ないので、日頃の活動に対する意見・要望を自由に交換していただこうという趣旨で、毎年このような会を開催しています。

今年の情報交換会は師走にずれ込んで平成29年12月2日の開催となりました。だからという訳ではないのですが、今回は最初からお酒と美味しい食事をしながら、自由に意見を交換していただくかたちで設定いたしました。場所は湖北にあるブラッスリー・ル・ポワロー、今回で2度目となりますが、いつも地元の野菜をふんだんに使った美味しく気取らないフランス料理を提供いただいています。ありがとうございます。残念ながら今回

の参加者は 20 名弱、しかしながら、その分ゆっくりと深い話が出来たと思っています。

この我孫子で援農ボランティア活動が始まって 10 年を超えました。 年月と共に色々なことが起こることは避けられません。身体の調子、社 会的要因、家族のこと、仕事の事…。それでも新しいメンバーを迎えた り、しばらくぶりに活動を再開していただいたり、いまだに活動を続け られている事は素晴らしいことだと思います。

活動規模が以前に比べると小さくなってきていることは事実としてありますが、折角ここまで来た援農ボランティア活動を、次の10年先まで続けて行く事が、一番重要なのではないか、と皆でグラスを重ねました。



ブラッスリー・ル・ポワローにて、 美味しい食事をしながら意見交換

さて、とは言ってもボランティア活動の仲間を増やしたい。この意見はメンバーの一致する意見だと思います。 毎秋に養成講座を実施していますが、それ以外にも気軽に活動に手を挙げていただける方を受け入れられる仕組み、新しく参加いただいた人が月1回でも良いので、長く続けられる居心地の良い団体にしてゆかなければと思っています。出来れば暖かくなる頃に、今度は野外でBBQか芋煮会でも開催出来ればと計画しています。その時は是非是非ご参加ください。大歓迎です!これからも援農ボランティア活動を宜しくお願いします。

4. 新年懇親会を開いて

平成30年1月13日(土)18時よりけやきプラザ9階ホールにて「新年懇親会」が開かれました。年明け早々の開催となりましたが、会員・協議会関係者等44名の方が参加しました。今回も、エコ農産物普及推進部・部会長を中心に食育交流部会、福祉施設みんなの広場「風」のスタッフの皆さんのご協力により我孫子産の野菜をふんだんに使った十数種類のお料理を肴に和気藹々と楽しい時間を過ごしました。

恒例になっております各部会のユーモラスな紹介や14期生養成講 座修了者7名のうち1名の参加者による自己紹介に会場内暖かい拍手 で歓迎しました。また、当協議会にご支援いただいております農政課の

協議会事務局 吉田和子



とりごぼうご飯、いもお赤飯、白菜サラダ、豚ばら大根、ローストビーフと 鶏肉唐揚げオードブル、ベジタブルむ しケーキなど、我孫子産野菜たっぷり

皆様にもご登壇いただき皆様にご紹介することができました。今年も1年よろしくお願いいたします! 年に1度の会ですが、会員同士・行政・協議会関係者の情報交換や意見交換、近況報告の場としてご利用いただけることを事務局一同願っております。次回も大勢の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

5. 新年ちびっ子餅つき大会 2018

総務部会 齊藤徳剛

平成30年1月20日、今朝は寒さが厳しくなるとの予報の中『新年ちびっ子餅つき大会2018』の日は明けた。朝日は拝めないものの風も無く、平年並みの気温に恵まれ準備作業がはかどる。今回が協議会事務所移転に伴い、手賀沼親水広場「水の館」で行う初めての大会となる。200台入る駐車場に多くの車が入って来て大会の盛り上がりに期待が膨らんでくる。開始の10時前には餅つきに並ぶ人々の行列が伸びていく様がうれしくなる。獅子舞の太鼓、笛の音が気分を盛り上げる中、子供たちの慣れぬ手つきでの餅つきが始まった。ヨイショ!ヨイショ!の大きな掛け声、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんなどが見守る中で餅つきが次々と行われた。杵を渡され泣き出す子がいるのもご愛敬である。餅つき体験の感想を聞かれた子供たちの「たのしい」の言葉が一番の報酬となりました。



獅子舞の太鼓、笛の音に気分が盛 り上がる

我孫子ふるさと会の獅子舞・休憩所・お汁粉振舞い・似顔絵コーナー・バルーンアート・あびこ子どもネットワークのJrと遊ぼうコーナー・我孫子産もち米無料配布・手作りおもちゃプレゼントと盛りだくさんで会場は多くの笑顔と歓声であふれかえっていた。11時頃には市長も来駕し、力強い餅つきを行い、来場者と懇談していた。飲食店コーナーに目を転じると、みんなの広場「風」(うどん・蒸しパン・クッキー)や、カレー、焼き鳥、うな吉焼き、磯辺焼きなどの店が並び、多くの人が笑顔で食べ歩きを楽しんでいた。会場にいる大勢の笑顔を見、大きな話し声を聞くと大会は今回も成功と思えました。



子供たちが慣れぬ手つきで餅つき。 ヨイショ!ヨイショ!

本大会の運営は会員有志及び各部会選出の実行委員会方式で実施し、役割分担は部会割り当てにて行いました。 もち米の手配や仕込みなど餅つき全般については「援農ボランティア受入農家有志」の皆さん、お汁粉サービスの 仕込みから提供までは「食育交流部会・エコ農産物普及推進部会」、磯辺焼きは「広報部会」、会場整理とちびっ子 の安全確保等は「学校給食支援部会」、駐車場の整理と誘導等は「援農ボランティア部会」、進行アナウンスやゴミ 箱設置等は「総務部会」が担当した。このほか当日参加のサポーターの皆さんも合わせると約50名の方々が参加 してくださいました。朝8時のテント設置から午後2時過ぎの後片付けまで事故も無くうまく運営できました。

最後に、運営全般に最大限のご協力を頂いた「あびこ農産物直売所あびこん」「株式会社あびベジ」「我孫子市 農政課」の皆さんには、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

6. 第42回消費生活展に参加して

広報部会 川田悦代

第42回我孫子市消費生活展は平成30年2月3日(土)・4日(日)に我孫子市民プラザで開催されました。 今年は「エコな暮らしでhappyに!」という全体テーマのもと、8団体が参加し、それぞれのテーマごとに 発表を行いました。当協議会は「エコ農業」をテーマとするパネル2枚、地産地消の意義をまとめたパネル1枚、 我孫子の農産物直売店に関するパネル1枚を作成しました。今年の2日間の総来場者数は811人と例年を大き く上回ったことも、このイベントへの関心の高まりを示しているのかもしれません。

今回のスタンプラリーのクイズで、当協議会は、「千葉県で通常と比べ て化学合成農薬と化学肥料の使用を半分以下に減らして栽培した農産物 を何というか?」という設問にしました(答えは「ちばエコ農産物」)。

来場者の方にパネルを説明し、クイズに正解された方にスタンプを押すまでの時間は、来場者の方と様々なお話をする中で、思わぬ感想や指摘を頂いたり、協議会の活動を別の角度から眺めたりできる貴重なチャンスでもあります。



来場者の方への説明

「今回展示したパネルを、別の機会にまた展示したら?」などのご意見を頂きました。なるほど、せっかく1年間、知恵と時間をかけて作ったパネルなので、1回きりで仕舞っておくのでは確かにもったいない。近隣センターや直売所、駅などで展示すれば、エコ農産物や地産地消について、より多くの方に知って頂けるチャンスになるかもしれません。また別の方は、その方が所属する団体では、設立から年数が経つにつれて、当初のビジョンが薄れてしまい、ご自身も活動から遠のいてしまった、と話していました。確かに、これからの目標やビジョンを定期的に更新することも、活動を継続することと同じくらい大切なことだと感じました。

7. イベント

① 第36回我孫子市農業まつり(平成29年11月18日)

第36回我孫子市農業まつりをできました事を実行委員会の皆様、ご協力くださりました各団体のすべての皆様に厚く御礼申し上げます。また、地産地消推進協議会の方には駐車場警備、大変お世話になりました。

さて近年では農業を取り巻く自然循環は非常に厳しく 日照りが続いたと思ったら集中豪雨など、全国各地で災害 をもたらす勢いの中で農業を営んでいますが、今年度は農 業まつりにおける共進会にもその影響が少なからず出品 数という形で表れていると思います。私の努力不足も関係 はあるかと思いますが過去にない出品数の少なさでした。 農業まつり実行委員長 田村星寿







農家自慢の農産物の出来栄えを競う「農産物共進会」 出展作品

10月に入り週末ごとに台風が接近した影響もあるのかと思われますが次の作付にむけて取り組んでまいります。

② 市民のチカラまつり2017 (平成29年11月25日・26日)

2017年度の市民のチカラに、当協議会は、「まちづくりグループ」の「展示・紹介部門」として、けやきプラザ2階で、あびこ型「地産地消」推進協議会を紹介するパネル2枚(「地」元「産」・「地」元「消」費の推進、あびこ型「地産地消」推進協議会)と、普段何気なく見ている野菜のアップ写真、援農ボランティア養成講座の実習風景と座学の様子、協議会のホームページ紹介などの写真をまじえて展示を行い、更に2015年度・2016年度に行った「農力発見プロジェクト事業」で作成した DVD をパソコンで、開催の間、流しておりました。開催の2日間に初代会長の遠藤氏をはじめ多くの関係者の見学を受けました。

来場者は、展示・紹介部門が1日目780人、2日目1,727人、合計2,507人、企画部門(講演・フォーラム)が約500人と、盛況な催しとなりました。会場には子ども連れも多く、日頃は市民活動に親しんでいない人が多かったように思います。

広報部会 若王子範文



あびこ型「地産地消」 推進協議会の活動を 紹介するパネルの展示

< Qサ: O tiまいま: B なわな: A QCまなひ え答のいて? (菜碑 89)

③ 「米舞亭シェフの家庭で楽しむ中国料理」(平成30年2月24日)

食育交流部会 白澤幸雄

「米舞亭シェフの家庭で楽しむ中国料理」をアビスタ調理室にて開催し、参加者・スタッフあわせて34名が参加しました。「家庭で楽しむ中国料理」の作り方を「米舞亭」の岩井久夫シェフを講師として招き、料理のポイントについての講師からのお話、また参加者からの質問もあり、大変和気あいあいとした楽しい雰囲気で進みました。メニューは「小海老のチリソース」「国産鶏の油淋鶏」「クラゲの冷菜和え」「ごまプリン」の4品でした。講習では「家庭では味わえないプロの裏技を学び、早速、我が家でも試してみたい」との声や、試食の時間では、「美味しい」との声が聞こえてきました。これからも、地元の農産物を通し、食の大切さを多くの人たちと共有していきたいと思います。



岩井シェフと一緒に調理をしながら料理のコツも学べる

8. 「援農ボランティア」をテーマに講演

協議会事務局 小松信彦

平成30年1月13日(土) 白井市保健福祉センターにおいて、白井市農政課が主催する『援農ボランティア 講演会』が行われ、『我孫子市における援農ボランティアの概要』の講演依頼を受け、当協議会の三宅会長(援農ボランティア部会長)が講演しました。

白井市では「援農ボランティア制度の検討」を行っており、その一環として、広く白井市民に参加を呼びかけ、 当日は25名の白井市民(農家および一般)が参加されました。

三宅会長から「我孫子市における当協議会設立の経緯」、「援農ボランティアの趣旨」などを説明し、続いて、「援農ボランティアの活動日や時間帯(単位)」、「活動計画」をお話しいたしました。

また、【ボランティア活動】なので原則、【無償】であることとするが、 交通費相当の実費弁償(300 円/回)が支給されていること、また、作 業での怪我などに対して「我孫子市市民公益活動補償制度」の対象となっ ていることを説明すると、受講者からはホッとした表情が見られました。 更に、「現状の援農ボランティア活動」と「援農ボランティア養成講座」 受講者の作業実態など具体的な講演内容に白井市民の方々は熱心に聴講 されていました。講演後の質疑応答も活発に行われ盛況のうちに終了しま した。

主催した白井市農政課からは、受講者からいい話が聞けたなど好評であったとのことで、白井市での「援農ボランティア制度の検討」に大いに役立つとの感謝のお言葉を頂きました。今後このような他地域での援農ボランティア活動の交流が活発することが望まれます。



白井市農政課主催の『援農ボランティア講演会』で当協議会の三宅会長が講演

9. 編集後記

昨年は、秋の長雨、冬の寒波と、野菜にとっては厳しい気候が続きました。今年こそは、自然の恵みを味わえ

る豊かな一年になってほしいです。ところで、年明け1月20日、新しい「水の館」で「ちびっこ餅つき大会」が開催され、子供連れで大変賑わいました。皆様、ご協力ありがとうございました。また、昨年秋の「援農ボランティア養成講座」では、新たに7名の仲間が加わりました。会報を見ると、ひとつひとつの取り組みが着実に実を結びつつあるのを実感します。一方で、軌道に乗った地産地消の活動をさらに発展させるには、我孫子の農業や協議会が目指す姿など、このあたりで一度、会員同士で「ビジョン」や「思い」を語り合うのもよいかもしれませんね。広報部会では、会報やHPを通じて、お互いの活動を情報交換するとともに、我孫子市の皆様に活動をアピールするなど、仲間の輪を広げるために取り組んで参ります。(武井伸勝)

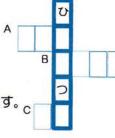
か・ん・た・ん 野 菜 パ ズ ル

くかんたん野菜パズル> 春です。野菜作りも忙しい季節ですね。 女子の健やかな成長を祈る春の節句とは? (横のカギ) A:アブラナ科の野菜。

A・アノファ科の野菜。 花茎やつぼみを食用にします。 A

B:香りと旨味のあるきのこ。 天ぷらにしても美味しいです。 C:七草粥のひとつ。

田んぽの畦道にも自生しています。 (答えは本会報のどこかにあります)



発 行 : あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 三宅 輝夫

住 所: 270-1146 我孫子市高野山新田193 (「水の館」2F)

(業務日 月・火・木) 9:00~17:00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

ホームページ http://abiko-chisan.com/

(協議会ホームページではカラーでご覧いただけます)

